

全焼のいけにえ

レビ記一章

祭司はそのすべてを祭壇で焼いて煙にする。これは焼き尽くすいけにえである。すなわち、主への火による献げ物、宥めの香りである。(9)

レビ記は、完成した幕屋においてどのように礼拝すべきか、その様式と制度を定めたものです。ここに表されている精神は、今の私たちの礼拝にも生かすことが大切です。この第一章には、全焼のいけにえについて語られています。このいけにえは、イスラエルの民が神によって聖別された民であることを表し、自分の全ては神のものであるという全き献身を意味します。私たちが礼拝において献金を献げるとき、幾らかの財を献げるというのではなく、自分自身の全てを献げる思いをもって献げます。それゆえ、感謝祈祷では、「このお金と私たち自身をあなたにお献げします」と祈ります。主イエスの十字架の血によって買い取られた私たちは本来、全てが主のものです。主のものを主にお返しする思いをもって、「私の全てをあなたにお献げします」と祈ろうではありませんか。